

廣峯ものがたり（八月）  
黒田家と御師たち

### 「熱き男たち」

秀吉に天下を取らせた軍師として人気の戦国武将・黒田官兵衛。その生涯を描いた歴史小説「播磨灘物語」に廣峯神社が紹介されていて、官兵衛縁の神社として参拝される方がよくいらっしやいますよと宮司さんから伺った。

官兵衛の祖父である重隆が備前から播磨に移り住み、知人の紹介で廣峯神社に参拝され、信仰するようになり、御師（社家）たちを目薬の販売を委託して財を成し、その後、小寺家に仕え姫路城主になったという話が残っています。

その祖父と一緒に両親も参拝されたそうで、母のお腹の中に官兵衛が宿っていたことから、安産を祈願されたかもしれません。



この御師（社家）とは、御祈祷師から転じた名称で、伊勢の神宮や熊野三山、春日大社、日吉大社などにも居り、御師屋敷をかまえて宿坊を営み、参拝者の宿泊の世話から御祈祷、御札や御守、暦などを配布していました。

廣峯神社の御師組織は、播磨を中心に、但馬、淡路、摂津、丹波、丹後、若狭、備前、備中、備後、美作、因幡、伯耆にまでおよぶ各国を回って信仰を広めていたそうであり、一地方の神社としては別格で熊野詣のように参拝する様子を「蟻の詣り」と表現するほど、多くの参拝者が祈願に訪れていたそうです。